

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育課程を展開する。 ②「確かな学力」向上のため組織的な授業改善を推進し、生徒が主体的に考える力を育てる。	②「確かな学力」向上のために教育課程の編成及び授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	②教員相互の授業見学や研究授業、研究協議を活性化させ組織的な授業改善に取り組む。	②生徒による授業評価や生徒学力調査の結果。	11月に教員相互の授業互見週間を設定するとともに、荏田南中学校への授業参観を行った。また、外部講師による授業改善のための研修会を実施した。	授業互見を行った職員が22名と少なかったので多くの職員が参加できるようにする。 研修会では、新学習指導要領において主題となっている「主体的・対話的で深い学びの実現」を踏まえ、現場に根ざした授業改善に取り組むこと、及び高大接続改革の背景とポイントを押さえ、授業改善の必要性を認識するために、「新しい時代に向けた「高大接続改革」高校はどう取り組んでいくか」と題して講演していただき、大学の入試改革やそれに伴う次期学習指導要領の狙いについて詳しい話を聞き、教員による「教授」から生徒自身による「学習」へのパラダイム転換を図って行く必要性を共有した。 生徒による授業評価や生徒学力調査のアンケート結果からは概ね満足を得られた。	(学校評議員) ・授業互見の人数は少なく書かれているが、オフィシャル以外の部分で行われている部分が多いので評価に値する。 (PTA運営委員) ・教員相互の授業見学の実施により組織的な授業改善の推進を今後も継続して欲しい。 ・目標点(到達点)に届かない生徒達への補習やフォローを強化していただきたい。 ・体育コースの発表を見る限り、生徒が主体的に育っていると思う。 ・授業内容については分からないが、生徒の様子を見ていると毎日取り組める学習指導がなされていると思う。	○今年度も荏田南中学校との授業参観を実施することができた。この取組は、今後荏田南小学校にも対象を広げ、早い段階から「新学習指導要領」への対応を進めていきたい。 ○校内における授業互見については、確かに設定した期間内における数は少なかったものの、若手教員を中心とした授業改善への取組は着実に進展している。新採用教員の授業が他校も含めた研修会で高く評価されたことも、その動きに良い効果をもたらした。	○「義務教育」「自治体」との絡みで、中高による連携は非常にしづらい部分がある。そのような状況での荏田南中学校との協力関係は今後も欠かせない。今年度までの2年間は「互見」のみで終わってしまったが、来年度は授業者と見学者が互いに感想を述べて、お互いの授業を高めるための機会を作りたい。 ○来年度で体育コースの「体育実験研究発表会」も最後になる。二十数年間にわたり、本校の特色を牽引してきた体育コースの学びの足跡をしっかりと残したい。 ○体育コースの募集停止にともない、来年度の2年生から新たな教育課程における選択科目がスタートする。今後の本校の学びの特色とするために検証していきたい。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①「健やかな体」と「豊かな心」を育成し、心ふれあう教育を推進する。 ②部活動や生徒会行事を通して生徒が自主的・自立的に活動する姿勢を育成する。	②部活動及び生徒会行事の活性化を図る。	②部活動等振興費の適正な運用の確立と、全校的な支援体制の整備。 ② 新入生歓迎会やHPによる宣伝広報活動を強化し、部活動加入率を高める。 ②企画の検討時間の確保と企画決定方法の整備。	②支出の見極めと趣旨の周知の状況。 ②HPの部活実績の更新回数。 部活動加入率の5月80%の達成と11月78%の維持。 ③ 準備期間や企画決定について、生徒・職員のアンケート60%以上の支持。	部活動等振興費は適正に運用されている。部活動備品購入を検討中。 HPの部活動実績は年2回更新した。 部活加入率は5月期78.3%、11月期74.4%で目標を達成できなかった。 行事等の運営はアンケートとの結果から概ね満足であったと考えられる。	来年度以降、年度末残金が生じた場合の運用法、徴収金額変更を検討する。 HPの更新回数の増加と部活動紹介ページの充実が急務である。 体育祭実行委員会の活用、青群祭の企画決定方法と落選団体対応の整備、食品団体の衛生指導の徹底などが課題である。	(学校評議員) ・超過勤務など部活動に対する教職員の負担が大きい。来年度から始まる「コミュニティスクール」を利用して県の方に提案していきたい。 (PTA運営委員) ・「マチコミ」を利用した迅速な情報発信に効果が見られた。 ・年に一度は部活動の保護者会を開催して欲しい。 ・自転車通学者が多いので、交通事故の防止とともに交通マナー遵守を伝えていきたい。	○今年度も多くの部活動が関東大会、全国大会に出場しており、それぞれ成果を残している。また部活動等振興費では、大会の開催地等との関係から遠征に関わる費用が減ったため、部活動の安全性を重視した備品を購入することができた。 ○部活動加入率については若干目標値に届かなかったため、その達成が来年度の課題である。	○来年度は本校の創立40周年の年であり、学校行事の随所にその足跡を残すことで、記録と記憶に残していきたい。 ○部活動の加入率については、それぞれの部活動の個性を活かした宣伝活動や本校HP・ツイッターの活用などで、より身近に部活動情報が入りやすくなり、80%以上という目標達成につなげたい。 ○交通事故防止の観点から自転車運転の技術やマナーについての講習会が必要である。

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりのキャリア形成を助長する進路支援の充実を図る。	個々の発達を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」の充実を図る。	本校の「キャリア教育実践プログラム」についてさらなる検証を実施するとともに、体育コース解消となる平成29年度以降を見据えた「キャリア教育実践プログラム」を作成する。	本校の実状を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」を作成できたか。	生徒一人ひとりのキャリア発達を促すという観点でのプログラムを作成できた。	個々の行事との関連付けの点では、更なる検証が必要である。高大接続改革に伴う具体的な現場の対応が求められている時期であることを考慮し、より良いプログラム作成を目指したい。	(学校評議員) ・受験生減少の時代変化もあるが、進学状況の成果が上がっているのは評価ができる。 (PTA運営委員) ・進路支援が不足しているように感じる。更なる充実を図って欲しい。 ・生徒個々の実力を見て一般受験を勧めてもいい。 ・体育コース募集停止に伴い、状況変化に合ったプログラム作成が必要である。 ・HPの充実が望まれる。部活動実績の紹介など、まめな更新をして欲しい。	○進学状況が全体的に上向いてきていることは、大きな成果である。一方国公立大学の合格者を輩出できるための環境の構築は大きな課題である。 ○定期的な進路情報の提供を確実に行ったことから、生徒が自主的に自らの進路を考えるようになった。 ○大学入学定員の厳格化という方針がはっきりと出されており、その状況に応じた対応が必要になってくる。	○来年度は体育コース最後の年となるので、コースの生徒のみならず、体育系の進路に関する情報提供を着実にを行うことで、進路保障をしていきたい。 ○指定校推薦の選抜方法のルールを変更する(第1回の希望は第一希望のみで選考)ことから、生徒が第一希望とする大学等に推薦できる体制を構築したい。 ○安易な形でのAO・推薦入学は控えさせ、本人の実力に見合った一般受験を勧めることも必要である。
4	地域等との協働	地域社会との協働および交流を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域とともにある学校づくりを推進する。	近隣小中学校や自治会等と連携した地域貢献活動を行い、仲間と協力して自己の能力を社会のために役立てる意義を考えさせる。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加を引き続き推進する。また部活動生徒による出前技術指導を実施し、近隣の小学生を招いての書道交流も昨年度同様に年に1回実施する。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加回数や種類が増えたか。また部活動出前技術指導や書道交流の実施回数。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加回数が昨年比で2回、参加種類が2種類増えた。また、部活動出前技術指導の回数は13回実施した。書道交流は昨年と同様1回実施した。	ボランティア活動の参加回数と種類が増えた。ボランティア活動のあり方について、計画的に企画・実施・検証し、引き続き参加を推進したい。	(学校評議員) ・地域との共同作業により荏田高校の名前が看板等に掲載されているのは喜ばしく思える。 (PTA運営委員) ・「おやじの会」などPTAとしても地域貢献ができた。今後もPTA会員も地域貢献に関わることができればいいと思う。 ・地域に密着し、地域に溶け込んだ活動をしている学校だと思う。	○地域連携の進展は本校のランドデザインの一柱の証である。「絆」の証である。地域の多くのイベントに本校生徒が積極的に参加していることが高く評価されており、今後にも継続したい。 ○PTA・PTAおやじの会、荏田いずみ会との協働がさらに進んだ年度である。これに同窓会を加え、学校運営の基盤をさらに強くしていきたい。	○平成30年10月25日の「創立40周年記念式典・記念事業」の成功に向けて、この数年で築いてきた多くの「絆」を大切にしていきたい。 ○ボランティア活動については、部活動の出前技術指導や自治会、小中学校のイベントなどへの参加を中心に引き続き進めていく。
5	学校管理 学校運営	①信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ②不祥事・事故防止の徹底を図る。	②私費・県費とも適切な執行を図り、誤りのない書類の作成を徹底する。	②複数の担当者により適切な執行が行われているかを確認し合う。また書式を統一することにより、記載ミス無くす。	②複数で確認し、適切な会計処理がなされているか。出納簿・報告書にも誤りが無いか。	中間会計監査等において、各担当者だけでなくグループでの確認や、管理職への報告・相談を行いながら書類の作成をした。その結果、大きな誤りは指摘されなかった。	仕事の集中する時期でもあるので、ゆとりを持って書類の確認をしてもらうように早めの準備をするようにアナウンスしていく。	(学校評議員) ・生徒の行事・式典に対するマナーが向上している。 (PTA運営委員) ・会計監査等を通じて、教職員に信頼が持てる。何の心配もない。 ・部活動に加入していない生徒の保護者もPTA会費を納入しているので、部活動以外でも会費を使って欲しい。 ・部活動の部費の監査を各保護者会で行い、PTAの会計監査で行わなくなったのは良い事なのか疑問を感じる。	○全体を通して、会計面での適切な執行、管理は今後とも重要な課題の一つであるが、今年度は特に私費の会計伝票の決裁が早く回せたのが成果の一つである。 ○稀なことではあるが、伝票が職員の手元に留まり、支払いが遅れるケースがある。複数の目で常に進捗状況を確認していくことが課題である。 ○部活動の経費については、生徒会費だけでなく、保護者に負担をして頂いている場合も多い。今後も部費会計の透明性を担保することが大切である。	○会計処理については、中間監査や学校徴収金運営協議会の日程などを見据えて計画的に進めていくことが必要である。 ○年度当初に会計の進め方についての確認を行うことで、管理職が替わることでの混乱を防ぎたい。 ○会計監査については、日程や方法を改善して、監査委員の大きな負担にならないよう検討を続けていく。